「共生の森」の植物　平成26年1月26日

冬芽と葉痕

木の葉が落ち、閑散とした景色が広がる「共生の森」。花もなく、虫もいない林を歩いていると、誰かがこちらを見つめている。

冬の間の植物は葉を落として、冬芽（ふゆめ・とうが）をつくって春を待つ。なんにもないようなこの季節、葉痕（ようこん：葉の落ちたあと）や冬芽がいろんな表情をつくって待っている。

シナサワグルミ

ハゼノキ

アカメガシワ

ムクノキ

ヌルデ

アオギリ

マルバアオダモ

クヌギ

イチジク

イヌビワ

センダン

シンジュ

イラガの繭と寄生バチ

イラガの繭に小さな穴があいていた。
イラガ専門の寄生バチ、イラガセイボウの産卵痕。春になると繭から蜂が出てくるか。

見かけた植物・生き物

モズのはやにえ（ｵﾝﾌﾞﾊﾞｯﾀ）

オオカマキリ（卵塊）

トベラ

マサキ

ピラカンサの実を食べるので、タヌキのフンがオレンジに

エノキ

センダン

アキニレ

「共生の森」の生き物　平成26年2月23日

ツチイナゴ（イナゴ科）

枯れ草の間にツチイナゴがいた。トノサマバッタほどの大きさで、涙目模様がポイント。

ほかのバッタと生活パターンが半年ほどずれており、夏に生まれて成虫で冬を越す。生まれた時には周りの草の色にあわせた緑色。生まれた時からすでに泣いている。

冬になり、草が枯れる頃、周りの草の色にあわせた茶色の衣装に衣替え。冬は動きが鈍く、枯れ草にまぎれると、なかなか見つけられない。

この日は草刈に驚いて出てきた。今日は寒くて泣いているのか。

春の競争相手が少ない季節に成虫で活動するのがツチイナゴの作戦。「共生の森」で成虫で冬を越すバッタは他にクビキリギスがいる。

芸術的な どろ団子

木の枝にまん丸な、球状のどろ団子が出現。
直径６センチ以上はある。スズバチの巣

ウスタビガの繭がぶら下がっていた。夏には保護色でみつけにくいが冬には目立つ。秋に成虫になるので中身は空。

ゴマダラチョウ幼虫
イラガの繭に寄り添い越冬中。エノキの枝に良く似た体色。一冬ここにいたか、最近、登ってきたかは不明。

モズのはやにえ

蛾

ミミズ

見かけた植物・生き物

ウ　メ

ナワシログミ

ホトケノザ

ノイバラ新芽

アオイラガ（繭）

ミノムシ（チャミノガ）

3月1日　「共生の森」植樹祭

これまで11回の植樹祭のうち、６回サークル植えを実施。
今年はマルチングが厚い。雑草の発生をどのくらい防げるか。

1110本の苗木を植栽　参加者565名

直径3mのサークルにそれぞれ15～17本の苗木を植栽。サークルは全部で74箇所。サークル植えをするのは下刈の労力を少なくするのが目的。

植栽樹種（21種）

エノキ・クヌギ・ケヤキ・コナラ・ネムノキ・ムクノキ・アラカシ・ヤマザクラ・ウバメガシ・クロマツ・スダジイ・タブノキ・ヤマモモ・ウツギ・シモツケ・タニウツギ・ハギ・カナメモチ・トベラ・ネズミモチ・マサキ

「共生の森」の生き物　平成26年3月16日

モンキチョウ（シロチョウ科）

ウメの花は盛りを過ぎたが、周囲はまだ冬の気配を残す。今年初めて出会ったチョウ。「モンキチョウ」タンポポの周りを飛び回っていた。

幼虫はシロツメクサなどマメ科の植物を食べる。

「共生の森」では3月～11月末まで見ることができる一番ポピュラーな蝶の一種。真冬以外はいつでもいるような感じ。

羽に紋のある黄色い蝶　という名の「紋黄蝶」。メスのモンキチョウには色の白いものもおり、遠くからみるとモンシロチョウによく似ている。

モンキチョウが出てくると、いっきに春がやって来る。

タヌキ

ちぬみ山に向う道をタヌキが歩いていた。
この日は、５頭のタヌキが目撃された。

ヘビの抜け殻が風にそよいでいた。去年の抜け殻

ゴマダラチョウ幼虫
前回と同じ位置でがんばっていた。ここで越冬か。

カナヘビ　ナナホシテントウ

モ　ズ

チョウセンカマキリ（卵塊）

ハラビロカマキリ（卵塊）

ミノムシ（オオミノガ）

蛾（蛹）　種不明

見かけた植物・生き物

アンズ

イスノキ

ヒメオドリコソウ

ホトケノザ

ツルニチニチソウ

オオキバナカタバミ

スイセン

「共生の森」の植物　平成26年4月22日

オオイヌノフグリ（ゴマノハクサ科）

オオイヌノフグリが咲いていた。大阪のどこでも見かけるオオイヌノフグリ。ところが、これまで「共生の森」では見かけることはなかった。今回みかけたものは「共生の森」の幹線道路沿いに咲いていた。種が車によって運ばれてきたのかもしれない。

明治時代にヨーロッパから日本にやってきたオオイヌノフグリ、名の由来はよく知られているとおり、果実の形からきている。同じ種類で、同じように日本にやって来た、小さくて見栄えの悪いフラサバソウ。そのフラサバソウが、フランス人のフランシェとサバチェを記念して名をつけられた事を思うとあまりにも気の毒な感じ。春に清楚に花を咲かせるオオイヌノフグリ。花言葉は「清らか」。

だけど残念ながら、その名はオオイヌノフグリ。

幼虫はどこ？　ゴマダラチョウ幼虫

２月には木の枝そっくりだった幼虫が、今度は新葉そっくりさんに変身。フンが無ければ気づきません。

ヒメアカタテハ

メスアカケバエ

ツバメシジミ

ベニシジミ

キビタキ

カラスノエンドウ

スズメノエンドウ

カスマグサ

オランダミミナグサ

ノミノツヅリ

ヤエムグラ

ウバメガシ

シナサワグルミ

カリン

見かけた植物・生き物

ヒメウズ

タチイヌノフグリ

ナワシログミ

ナツグミ

カンサイタンポポ

ナガミヒナゲシ

フタモンアシナガバチ

フタモンアシナガバチの女王バチが巣づくりをはじめていました。
巣の中には卵が見えます。

「共生の森」の生き物　平成26年5月25日

ハナムグリ（コガネムシ科）

ハナムグリ（花潜り）。花に潜り花粉などを食べ、花の受粉に大きな役割をはたしている。

10円切手のようにタンポポに潜るものは見かけなかったが、とにかく、至るところで花にもぐっていた。

この日は、コアオハナムグリとソックリさんのアオヒメハナムグリ多く、ハナムグリの8割程度がアオヒメハナムグリ。おなかが赤く、背中の白点が少ないほうがアオヒメハナムグリとのこと。

よく見ると互いに交尾していているので、交雑しているものも、いるのかもしれない。

見かけた植物・生き物

ノイバラ　シロテンハナムグリ

イボタノキ

トキワサンザシ

ザクロ

ヘビイチゴ

ヤマグワ

ウ　メ

シナサワグルミ

ゴマダラチョウ（卵）

今年羽化したゴマダラチョウが産卵（エノキ）

テングチョウ

チビドロバチ

ニホンミツバチ

クマバチ

ショウジョウトンボ

シオカラトンボ

アオモンイトトンボ

クスダマツメクサ

コメツブツメクサ

コメツブウマゴヤシ

コヒルガオ

ハマヒルガオ

ヒルザキツキミソウ

「共生の森」の生き物　平成26年6月29日

タイワンウチワヤンマ（サナエトンボ科）

タイワンウチワヤンマがショウジョウトンボを食べていた。タイワンの名が示すとおり南方系のトンボで温暖化により北上しているといわれている。腹部の先が団扇のように開いていることからウチワヤンマ。

今や、大阪では普通にみられる種になっているが、「共生の森」では、2年前に初めて目撃された。

この日は水辺近くの林の縁でパトロールをしたり、くもの巣にひっかかっていたり。

どうやら「共生の森」に定着したよう。

見かけた植物・生き物

チョウトンボ

この日一番多かったトンボ

シオカラトンボ

ショウジョウトンボ

マイコアカネ

アオモンイトトンボ

キリギリス

トノサマバッタ

ヒメギス

トウネズミモチ

トウネズミモチが満開

ヒレハリソウ

ネムノキ

イヌコモチナデシコ

ウイキョウ

ハナハマセンブリ

キアゲハ幼虫

ゴマダラチョウ　季節にあわせた色に

ツマグロヒョウモン

アオスジアゲハ

テングチョウ

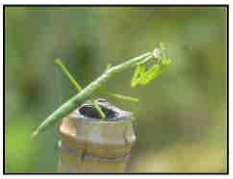
キマダラセセリ

ベニシジミ(ﾋﾒｼﾞｮｵﾝ)

ツバメシジミ(シロツメクサ)

コオイムシ

トックリバチ　巣


カマキリ(幼)

ｺｶﾞﾈｸﾞﾓ　ｱｵｽｼﾞｱｹﾞﾊ

卵嚢を持ち運ぶ

ｵﾆｸﾞﾓ　ｺｱｵﾊﾅﾑｸﾞﾘ

「共生の森」の生き物　平成26年7月26日

クマゼミ（セミ科）

声を聞くだけで体感温度が上がってしまいそう。大阪では、その声を聞かずに夏をやり過ごすことは出来ない。おそらく大阪で一番有名な昆虫。真夏の代表選手のクマゼミ。大合唱はしばらく続く。

「共生の森」で見られる、3種類いるセミの中で、クマゼミは、最初にやってきたセミ。木も大きくなり2年前からは、抜け殻が見つかりはじめ、「共生の森」でクマゼミの循環が始まった。

見かけた植物 ・生き物

クサギ

ク ズ

オニユリ

シナガワハギ

ﾑﾗｻｷｳﾏｺﾞﾔｼ(ｱﾙﾌｧﾙﾌｧ) ﾍﾞﾆｼｼﾞﾐ

ヤマトシジミ

ウラギンシジミ

シロスジヒメバチ

ハラビロカマキリ

じゃまされて、すこしご機嫌ななめ

ｱｵﾒｱﾌﾞ ｱｶｽｼﾞｶﾒﾑｼを捉えている

ヨツスジトラカミキリ

ウスバキトンボ

ギンヤンマ

ショウリョウバッタ

トノサマバッタ

Ｕポンド　自然の遷移に任せる地区

Ｕポンドでは、持ち込まれた土砂に混じっていた植物、風で運ばれてきた植物、鳥によって運ばれて来た植物などが自然に育ち、今では林といえる状況になっている。

「共生の森」の生き物　平成26年8月29日

マイコアカネ（トンボ科）

舞妓茜。真っ赤な衣装に青白い顔。化粧をした京都の舞妓さんに見たて、名づけられたといわれる。

平成23年から「共生の森」で見かけるようになり、毎年、分布の範囲を拡げている。すばやく飛ぶわけでもないので、気づきにくいが、水辺から遠いJ山やN山の林の縁でもフラフラと飛んでいる。

その名と色彩、小柄な姿から、なかなか清楚な感じのするトンボ。

見かけた植物 ・生き物

フヨウ

アメリカノウゼンカズラ

ヘクソカズラ ・ ｺｱｵﾊﾅﾑｸﾞﾘ

フウセンカズラ

メマツヨイグサ ・ ﾊﾅｸﾞﾓ

ヤブラン

オニグルミ

イヌビワ

ルリタテハ

「共生の森」初登場

カネタタキ

赤い トノサマバッタ

クマバチ ・ ｱﾚﾁﾊﾅｶﾞｻ

ホウジャク ・ ｼｭｯｺﾝﾊﾞｰﾍﾞﾅ

不明（ｶｹﾞﾛｳの仲間）

シロテンハナムグリ ・ カリン

タイワンウチワヤンマ

ゴマダラチョウ

台風 11 号（８月１０日）による被害

風の強かった台風 11 号。幹が裂けた木があった（Uポンド）。台風による目立った被害はない。

「共生の森」の生き物　平成26年9月29日

オオカマキリ（カマキリ科）

さわやかに晴れわたる秋空の下、オスカマキリはメスカマキリに食べられていた。

交尾後、オスは、ぼけっとしていると、このように命を落とすことになる。

「共生の森」には現在4種類のカマキリがいる。一番多くいるのはオオカマキリ。あとの3種類は、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリ。

草原のころによく見かけたコカマキリは最近、あまり見かけなくなった。これも植生の遷移の影響か。

カマキリに近づくと、ずっと、こちらを見られているような気がする。目の構造上、必ず目が合うように出来ている。

見かけた植物 ・生き物

ヒガンバナ

アキノノゲシ

ザクロ

イチジク

クダマキモドキ

けっこう、長い距離を飛ぶ

ウラナミシジミ

ベニシジミ

ツバメシジミ

ヤマトシジミ

トノサマバッタ

アオモンイトトンボ

チャバネセセリ

ウスバキトンボ

アキアカネ

シオカラトンボ

ワシントンヤシ

「はじまりの森」の草むらに、ワシントンヤシの苗木が生えていた。鳥が種を運んできたと思われる。

「共生の森」の植物　平成26年10月25日

ホルトノキ（ホルトノキ科）

７年前に「はじまりの森植樹祭」で植えたホルトノキに実がなった。

「はじまりの森」では横浜国大名誉教授の宮脇昭先生の指導で、1㎡に3本ほどの苗木を密植した。

少し変わった名のホルトノキ。名の由来は江戸時代に遡る。和歌山の湯浅で、ホルトノキの実を見た平賀源内がそれを、当時、 南蛮から日本に入っていたオリーブの実と思い、「ポルトガルの木」と名づけたものが転じて「ホルトノキ」となった。

もともと日本にある種で、暖かい沿岸部などに 生育し、大阪にも自生する。 街路樹でも、見かけることがある。葉は、ヤマモモに似るが、一度に落葉せず、常に入れ替わっている為、必ず何枚かが赤い葉が混じることからヤモモモと見分けがつく。

見かけた植物 ・生き物

キミガヨラン

ナワシログミ

ウバメガシ

イヌビワ

セイタカアワダチソウ

クサギ

はじまりの森（平成 19 年 11 月植栽）

２～３本／㎡の密植　初期投資はかかるが、下刈り２回、７年で立派な林になった。

テングチョウ

ヤマトシジミ

モンキチョウ

ヒメアカタテハ

カネタタキ

マダラバッタ

ツチイナゴ

エンマコオロギ

ホシササキリ

シオカラトンボ

ウラナミシジミ

ツユムシ

ザクロ

トキワサンザシ

タチバナモドキ

「共生の森」の植物　平成26年11月29日

紅　葉

木々の葉が色づき、一年で、いちばんカラフルな季節がやってきた。

「共生の森」では、たくさんの木を植えてきたが、今、見ごろになっている木は、鳥が種を運んできて、自然に大きくなったものがほとんど。

写真の赤い木は外来種のナンキンハゼ。黄色い木は荒地を得意とする、アカメガシワ。

この日は暖かく、紅葉が青空に映える中、晩秋を生きる虫たちが活動していた。

この2日後には、近畿地方に寒気が流れ込み、金剛山では初冠雪を記録した。

もうすぐ「共生の森」にも冬がやってくる。

見かけた紅葉

ニセアカシア

ハゼノキ

エノキ

ナンキンハゼ

アカメガシワ

ク　ズ

見かけた植物・生き物

Q池　対岸のはシャープ堺工場

トノサマバッタ

オンブバッタ

ベニシジミ　ｾｲﾀｶﾜﾜﾀﾞﾁｿｳ

アキアカネ

ツユムシ

モンキチョウ　ｺｾﾝﾀﾞﾝｸﾞｻ

ビワ

マサキ

何者かの　通勤経路

「共生の森」の植物　平成26年12月14日

クロマツ（マツ科）

ちぬみ山　H23　2月植栽　マツは枝のつき方で樹齢がわかる

「白砂青松」「松竹梅」日本人に、なじみ深いマツ。

潮風に強く、海岸に多いのはクロマツ。クロマツは「共生の森」でも成長のよい植物のひとつ。

大きなものは9年で5m程度に成長している。

マツは1年に一度、輪状に枝を出すため年齢を数えやすい。写真のマツはH22の成長後、「共生の森」に移植された為、H23 は成長が悪い。その後は毎年順調に成長している。枝の状況から、移植前に少なくとも4年間成長している。現在おそらく8歳。

H20 も成長が悪い。植え替えかなにか、このマツに災いがあったことがわかる。

クロマツ(J 山)

H16年３月　植栽

スズバチ　巣

ミノムシ

ハクセキレイ

ナヨクサフジ

セイヨウタンポポ

ランタナ

トキワサンザシ

タチバナモドキ

見かけた植物 ・生き物

ヤツデ

スイセン

ノイバラ

カ　キ

センダン

トウネズミモチ

今年も集団でやってきた